

令和7年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第二中学校（ S 組 ）

目指す授業		○既習内容を活用する活動を充実させ、学習内容を定着させる授業 ○学習内容に関する生活に即した知識・技能を増やし、その知識・技能の活用方法に具体的なイメージをもたせる授業		
教科	① 児童・生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果	
国語	○漢字の読み書きは、形や意味の定着が難しい。書くことに抵抗がある生徒もいる。 ○文章読解は、接続詞や主語・述語、文章のまとまりなどが理解できず、正しい読み取りができないことがある。 ○語彙が少ないため表現があいまいになり、物事を説明しきれないことがある。	○継続的に漢字学習の取組を行う。また、写真やロールプレイなどで日常生活と結び付けた指導を行い、普段から漢字を活用できるようにする。 ○短文作成の取組を通し、文章の組み立て方を理解して読解する力につなげる。 ○言葉の学習では「意味・使い方・使う場面」をセットで指導し、語彙力を付ける。	○作文や日記など、漢字を活用して文章を構成する生徒が多く見られた。辞書やタブレットPCを活用する姿も見られた。 ○短文や作文、お礼状など、内容を組み立てながら書くことができた。 ○言葉の学習を通して、意味を理解して使える語彙の量が増えた。	
算数・数学	○お金の計算や時間の計算などを日常生活の場面で活用することに課題がある。 ○四則計算は、個による差が大きい。 ○文章問題は、文章の理解が難しい生徒や解法が思い浮かばない生徒がいる。	○日常生活の場面を想定した問題に取り組ませる。また、グループ学習を通じ、考えを深めさせる。 ○個の学習状況に応じて、かけ算表などを活用する手だてを伝え、繰り返し問題に取り組ませる。 ○短い文章の読解を繰り返し行うことを通じて、問題文を読むことに慣れさせる。また、文章中の重要語句に注目させ、問題に取り組ませる。	○日常生活の場面を想定した問題に多く取り組ませることで、お金の計算や時間の計算をする力が向上した。 ○基礎的な計算については、個々の差はある。個別の課題を用意し、今後も繰り返し学習する。 ○短い文章の問題を繰り返し解くことで、文章中の重要語句に注目する場面が増えた。	